

全国地震動予測地図の広報資料について

令和7年6月27日

地震調査研究推進本部事務局

パンフレット作成について考え方の整理

- 予測地図を**知ってもらい**、特に確率論的地震動予測地図の**よくある誤解を解いて、正しい理解**をしてもらうことをこのパンフレットのねらいとする。
- 地図を拡大してお住まいの地域の確率がどうであるかを知り、予測地図が**地震の備えをしてもらうためのきっかけ**となるようにする。
- そのために、予測地図について正しく伝えるべく、地震調査委員会の部会等における**地震専門家の知見を反映**しつつ、広報の対象者（一般国民・自治体の防災担当者等）を意識し「**分かりやすさ**」と、出来るだけ両立させる。

作成にあたっての留意事項

誤解なく地震動予測地図を使ってもらえるように

- 拡大して見ることができることが伝わるように
- 地震動予測地図に関するよくある誤解・誤用を解説

第7回広報検討部会（令和7年2月18日）
資料_広7-(3)「全国地震動予測地図の広報資料の試作について」から抜粋

読みやすいパンフレットに

- 情報を詰め込みすぎない
- イラストを多用して、親しみやすく
- ところどころに専門家の解説コラムをはさみ、納得感が得られるように

対象者を意識したつくり

- 対象者別に活用場面を示す

これまでにいただいた主なご意見

広報検討部会(2/18)、地震動予測地図高度化ワーキンググループ(2/28)、長期評価部会(3/18)、強震動評価部会(3/25)においていただいた主な意見と対応案

意見①：全国地震動予測地図には、確率論的地震動予測地図とシナリオ地震動予測地図の2つがあることを明記すべき。

→ 冒頭で、2つの地図があることを示す。シナリオ地震動予測地図の詳しい説明はホームページへ誘導する (p.2)。

意見②：「250m」が強調されすぎている。250mで路地を挟んで確率が変わると誤解される。また、メッシュ内でも地盤の状況が異なる場合があるはず。

→ 250mは強調せず、路地まで拡大するのではなく地域ごとに見てもらうような表現とする。メッシュはあくまで色分け(表示)の最小単位であり、同一メッシュ内でも地盤の状況は異なる場所もあることを示す (p.3、11)。

意見③：確率の意味についてもう少し丁寧な説明が必要ではないか

→ 確率による色分けの意味を明記するとともに、火災等他の危険性の例を示して確率の数値の受け止め方を説明 (p.2)。

意見④：確率論的地震動予測地図がどのように作成されているかを丁寧に説明すべき

→ 太平洋側の確率が高い理由を説明したコラムに、確率論的地震動予測地図の作成の考え方を記載。また、発生確率の低い断層であっても、ひとたび地震が発生すれば、強い揺れに見舞われる危険性があることを明記 (p.9)。